

製品名: インヒビン α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab12612

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	INH A
別名	Inhibin alpha chain
遺伝子 ID	3623.0
SwissProt ID	P05111
免疫原	アミノ酸配列範囲 211-260 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

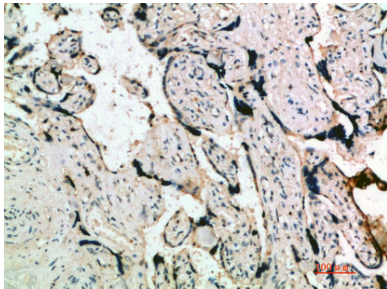
背景

この遺伝子は、TGF- β （形質転換成長因子 β ）スーパーファミリータンパク質のメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって、インヒビン A および B タンパク質複合体の α サブユニットを含む複数のペプチド産物を

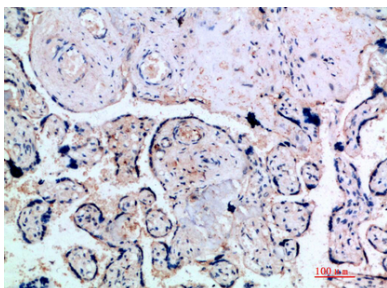
生成します。これらの複合体は、下垂体からの卵胞刺激ホルモン（FSH）分泌を負に制御します。インヒピンはまた、細胞増殖、アポトーシス、免疫応答、ホルモン分泌など、多くの細胞プロセスの制御にも関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、男性不妊症や女性患者の早発卵巣不全と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2016年8月] 機能: インヒピンとアクチピンは、それぞれ下垂体からのフォリトロピン（卵胞刺激ホルモン）分泌を阻害および活性化します。インヒピン/アクチピンは、そのサブユニット構成に応じて、視床下部および下垂体ホルモン分泌、性腺ホルモン分泌、生殖細胞の発達と成熟、赤血球分化、インスリン分泌、神経細胞の生存、胚軸発達、骨成長など、多様な機能の調節に関与しています。インヒピンはアクチピンの機能に拮抗するようです。、オンライン情報: インヒピンのエントリー、PTM: タンパク質分解処理により、いくつかの生理活性型が生成されます。20/23 kDa型は成熟 α 鎖のみで構成され、26/29 kDa型はジスルフィド結合を介して成熟 α 鎖に結合した最N末端プロペプチドで構成され、50/53 kDa型はプロタンパク質全体を含みます。さらに、各タイプはモノグリコシル化またはジグリコシル化される可能性があり、これにより質量差が生じます。、類似性:TGF- β ファミリーに属します。、サブユニット:二量体で、1つ以上のジスルフィド結合で結合しています。インヒピンAは、 α と β -Aの二量体です。インヒピンBは、 α と β -Bの二量体です。、組織特異性:もともと卵巣（顆粒膜細胞）と精巣（セルトリ細胞）に見られますが、脳や胎盤を含む多くの組織に広く分布しています。副腎皮質では、正常な副腎では網状層と最も内側の束状層に発現が限定されていますが、過形成では束状層に求心的に広がります。副腎皮質腫瘍にも見られます。良性前立腺肥大症の前立腺上皮、基底細胞増殖領域、および高悪性度前立腺癌の非悪性領域にも発現する。男性では循環血中のインヒピンBのみが認められるが、女性では循環血中のインヒピンAとBが認められる。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された